

**“働けないママ”を
生まない地域へ。**

自己紹介



細川 遥

現在の活動

- ・ハンドメイド制作
- ・県内イベント出店
- ・ワークショップ講師・企画
- ・個人事業主として活動中

背景・経験

2児の母

子どもに発達特性あり、週3療育＋通院

通院・呼び出し・スケジュール固定の生活により

働きたいのに働けない状況を経験

富山県は「子育て日本一」

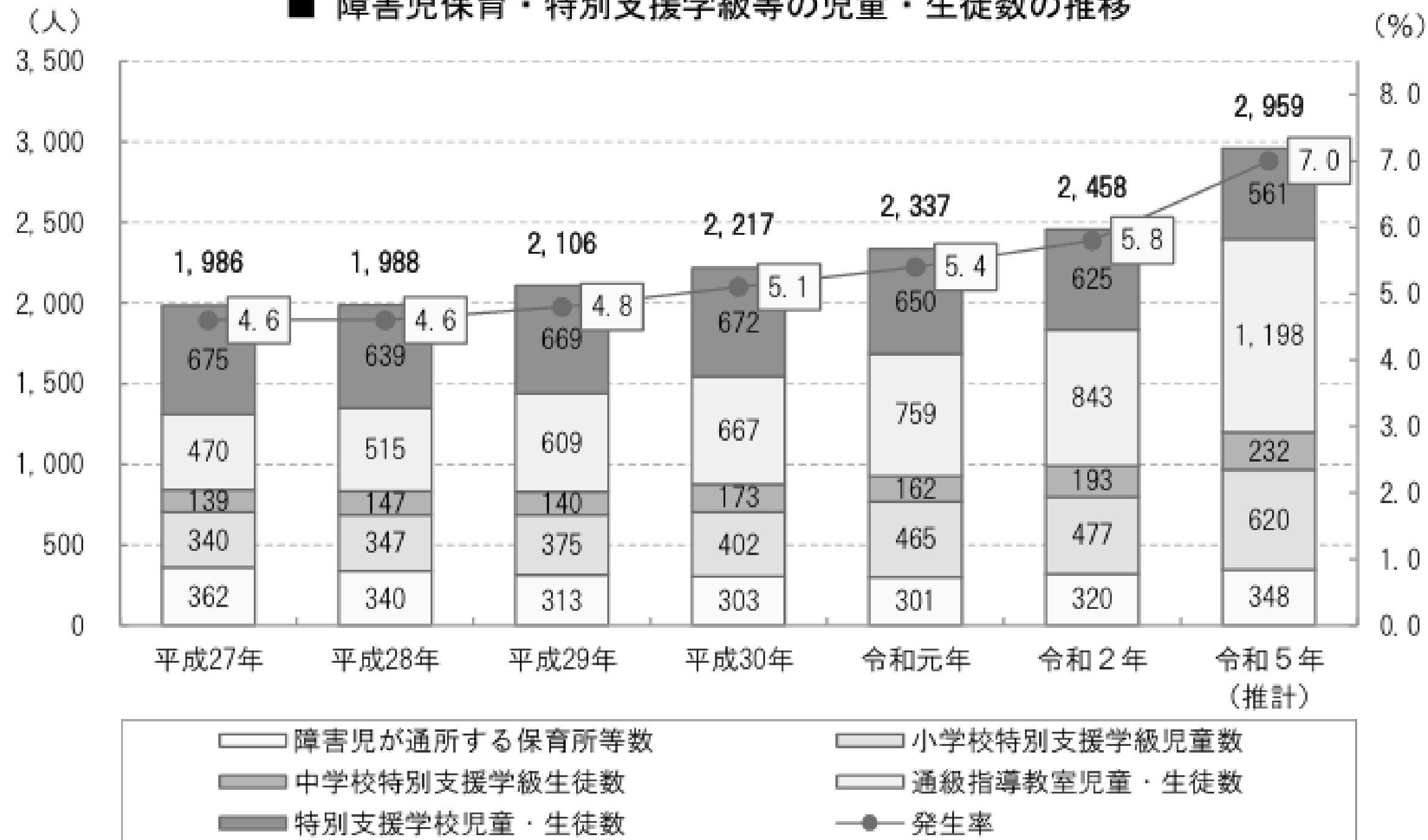


富山県は「日本一子育て
しやすい県」を目指しており
育児をしている女性の

有業率は78.8%

(令和4年就業構造基本調査結果の概要より)

■ 障害児保育・特別支援学級等の児童・生徒数の推移



※発生率は、障害児が通所する保育所等数、児童数、生徒数、特別支援学校^{注2}児童・生徒数の総和に対する障害児保育者数、小学校特別支援学級^{注3}児童数、中学校特別支援学級生徒数、通級指導教室^{注4}児童・生徒数、特別支援学校児童・生徒数の発生率

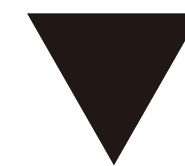
※令和5年及び令和6年の推計値は、平成30年から令和2年の実績値の伸び率の平均値を前年の実績値に掛けることにより算出。

資料：福祉保健部 障害福祉課、こども家庭部 こども保育課、教育委員会 学校教育課
(各年度5月1日現在)

三歳児検診→ADHD診断



子ども園で不適切な保育を受ける



退園

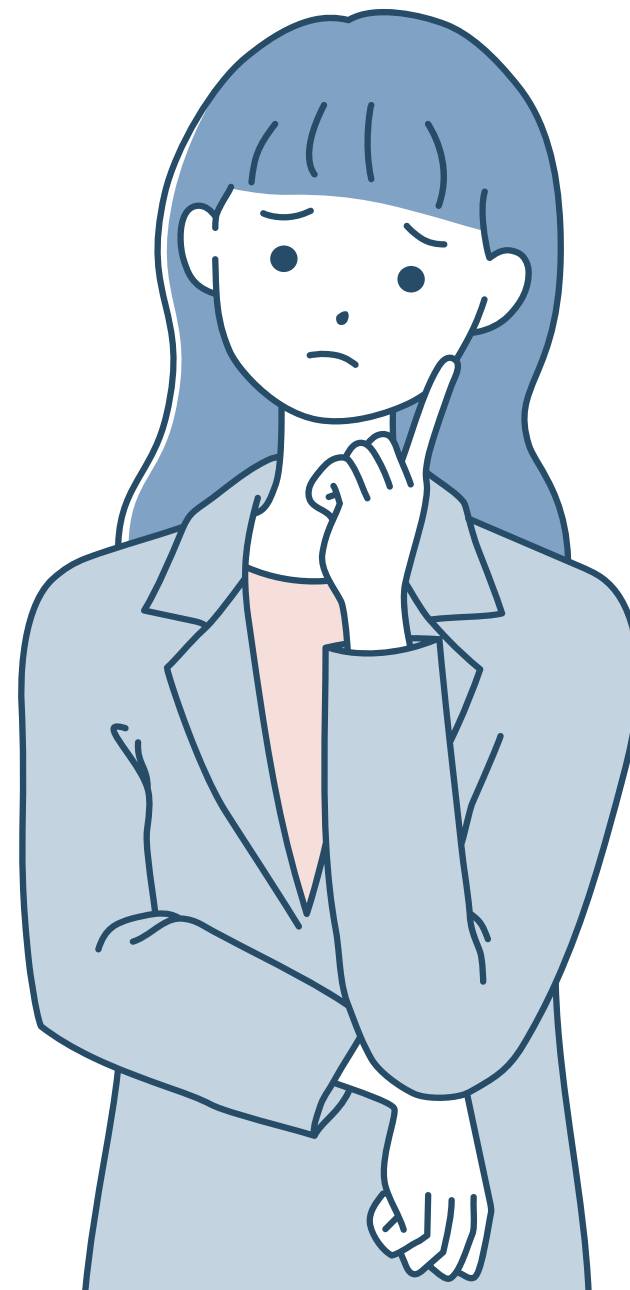


保育園と仕事を同時に探すが
療育と両立できる仕事が見つからない

障害者雇用はあるのに 障害児ママ雇用はない

不登校の子がいる
から普通の働き方
は難しい！

子育てが落ち着い
たらすぐ介護！



女性ばかりがいつも
家族や誰かの事を
優先しなくてはいけない

生活に合わせて働き方を選ぶ仕組み

支援機関・制度

- ・ 支援制度
- ・ 療育環境
- ・ 相談窓口

企業側

- ・ 時短勤務
- ・ フレックス
- ・ リモートワーク

「この条件に合わせてられる人」が働ける前提

- ・ 障がい児育児・介護
- ・ 不登校支援
- ・ 突発的な通院・呼び出し

日々の生活リズムが読めず、勤務条件を
事前に確約できず働きたくても働けない

そんな生活の中で必要なのは
一時的な仕事の機会ではなく
「働き続けられる仕組み」

「企業に合わせて働く」のではなく
「生活に合わせて働き方を選ぶ仕組み」
をつくる必要がある

サービス・事業内容

ママステーション拠点

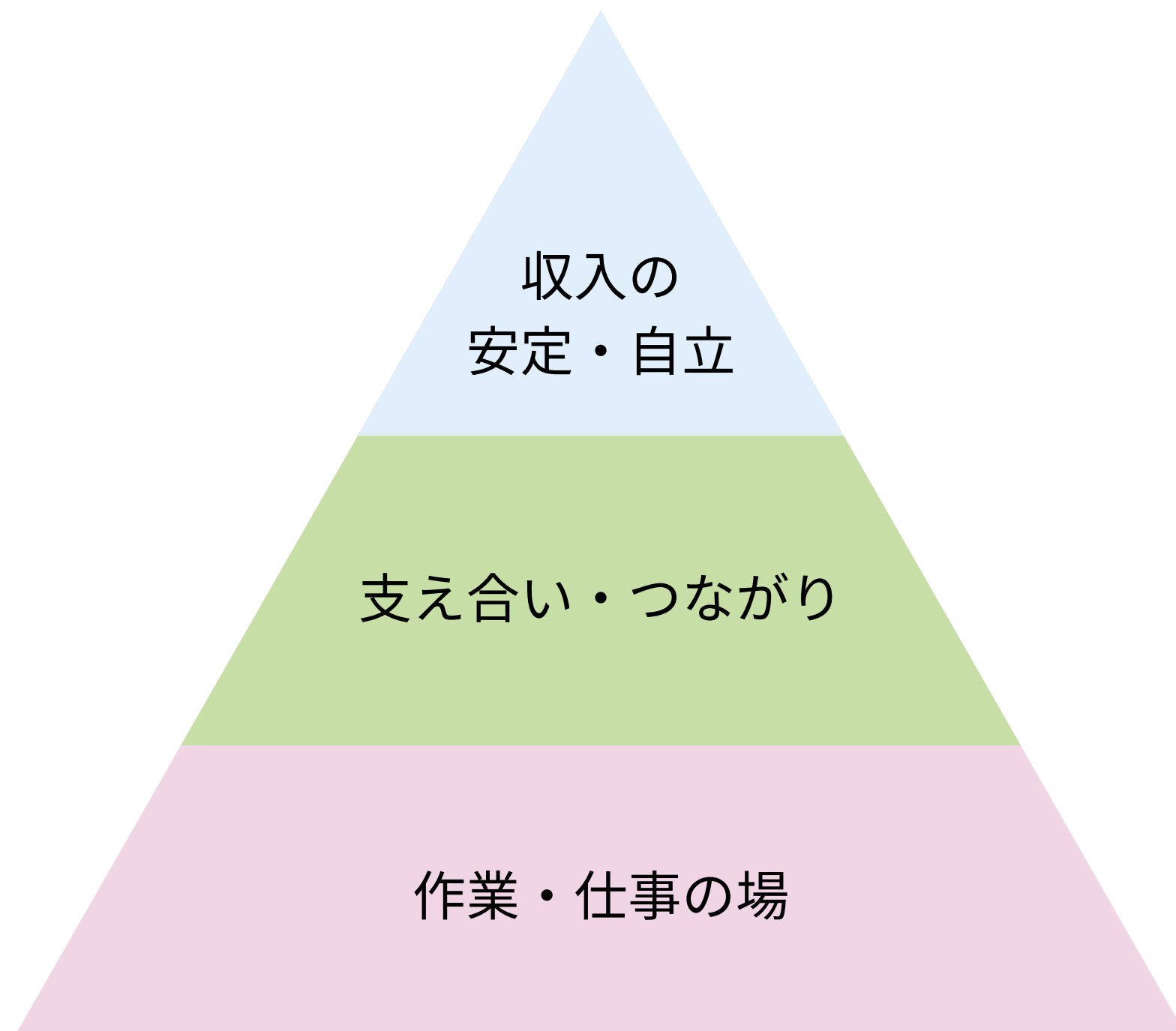
コワーキングスペース
(シェアオフィス)

リラクゼーションサロン
経験を活かせるシェアサロン

コミュニティサロン
地域交流の場・必要があれば行政へつなげる

ハンドメイド委託販売
委託ボックスにて雑貨・アクセサリー・服飾等の販売

コワーキングスペース



自立につながる「収入と挑戦」

- ・仕事づくり
- ・継続収入
- ・小さな実践
- ・次のステップへ

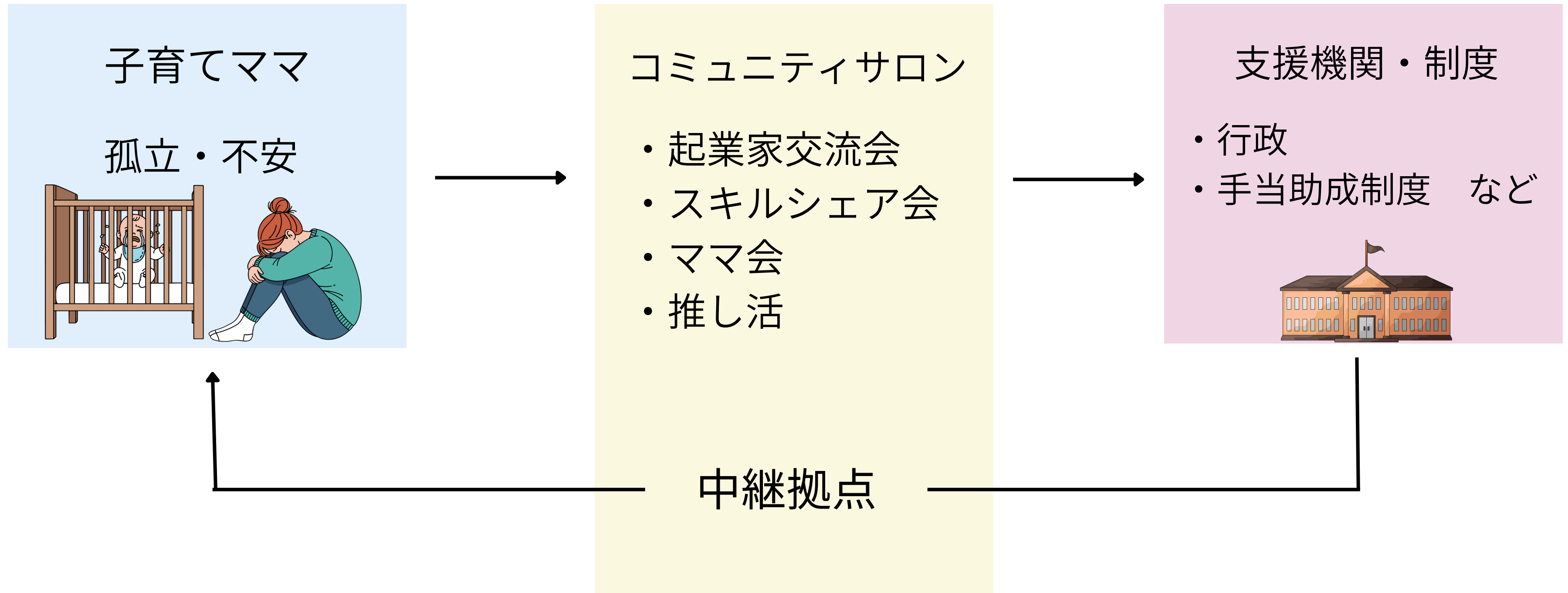
支え合える「人のつながり」

- ・情報共有
- ・相談できる仲間
- ・得意のシェア
- ・孤立しない環境

安心して使える「働く場所」

- ・作業スペース
- ・ハンドメイド機材、設備レンタル

コミュニティサロン



リラクゼーション・委託販売

施術者するママ

- 働く場所がある
- 空き時間活用
- 収入につながる

リラクゼーション 委託販売スペース



お客様

- 待ち時間短縮
- 選べる施術
- 満足度UP

なぜ複合型なのか

人が自然に集まる場所をつくるために

ママステーション

コミュニティサロン

リラクゼーション

ハンドメイド委託販売



ママステーション拠点利用のメリット

- 事業住所として登録できる
- 作業・撮影・発送・打ち合わせなどに使える拠点がある
- 備品・機材・材料をシェアできる
- 受注や仕事の紹介・シェアがある
 - スキルが無くても挑戦できる
- 委託販売・オンライン販売の支援がある
 - 「作るだけ」で終わらせないしくみ
- 仲間と情報交換しながら働ける
 - 困った時は助け合い、得意な人がフォローする文化がある



クライアントのメリット

必要な時に必要なスキルだけ依頼できる。⇒採用コスト減

ママならではの生活者目線や柔軟な発想を活かした
商品企画・制作・イベント運営を依頼できる

短期・単発・小規模案件を依頼できる

**“地域のつながり + 実用的な人材活用”が
同時に手に入る**

差別化ポイント

比較対象	スキルマッチングサイト	スキマバイト	ママステーション
働き方	◎	◎	◎
教育	×	×	◎
マッチング	◎	△	◎
コミュニティ	×	×	◎
持続性	△	×	◎

富山は「人がつながるスピードが早い県」

人との距離が近い地域性

小商いが育ちやすい土壌

地元企業や行政が「地域活性」「共助モデル」に前向きな風土

女性の起業意欲・副業意欲が増えている潮流

大規模都市よりも、コミュニティ型の仕事・学び・助け合いが成立しやすい



【必要なサポート】

- ✓ 収益モデルの構築について専門的なアドバイスがほしい
- ✓ 起業初期の資金計画・拠点の確保について相談したい
- ✓ 仕事を獲得するための仕組みづくりの支援
- ✓ 事業計画の精度向上・継続可能性の検証

ご清聴いただきありがとうございました

